



# 全力で楽しめ！中1白崎交流合宿



「向陽ライフは白崎から」5月1・2日、中1交流合宿を白崎で実施しました。今年も真っ青な海と空、そして真っ白な石灰岩が15期生を迎えてくれました。1日目は、まず、県研修センター学びの丘の講師先生の指導で地層観察を行いました。白崎の石灰岩の歴史は約2億年前にもさかのぼり、その時代の化石が無数に含まれていることを知り、生徒は夢中になって化石を探していました。班で弁当を食べた後、磯で生き物観察を行いました。ここでは自然博物館友の会の講師先生に、一人ひとりが捕獲した生物の名前や生態の特徴について教えてもらいました。夕飯は飯盒炊飯です。今年もカレーコンテストと称して、各班が隠し味を工夫して味を競いました。夜はキャンプファイヤー。「あとひとつ」の合唱から始まり、強風で火の粉が舞う中、実行委員を中心に全員が協力して一生懸命盛り上げようと頑張る姿はとても微笑ましかったです。2日目、午前中は小雨の中フィールドサーチで自然の家周辺を班で協力して駆け巡りました。午後はサンドアートの予定でしたが、雨のため、体育館でのレクリエーションに変更しました。でも、最後まで「全力で楽しめ」のスローガン通り、「雨で残念・・・」ではなく「雨だから・・・」と言えるくらい、みんな笑顔で楽しんでいました。終始、自分たちで決めた規則もみんなですべてでき、楽しくて締めりのある合宿でした。15期生、いいスタートです。



# 自然との関わりを学ぶ 中2孟子フィールドワーク

4月27日、うぐいすの鳴き声があちらこちらから聞こえる孟子ビオトープで、2年生恒例のフィールドワークを実施しました。「自然回復を試みる会」の活動を知り、池に住む水生生物を捕まえたり、植物の観察をしたりして、丸一日、たっぷり自然を満喫しました。講師先生として環境学習アドバイザーや県立自然博物館の学芸員の方々をお迎えし、専門的な指導を受け、生徒たちは熱心に耳を傾けました。大切なのは生き物に触れる体験です。生徒は、果敢に池の中へ入っていき、オタマ



ジャクシ・カエルやザリガニを捕え、歓声をあげていました。また、トゲミノキツネノボタンという黄色い小さな花を咲かせる外来種を駆除し、人が自然に手を加える必要性を学びました。孟子ビオトープには、本校の理科部が定期的に訪れ、トンボやカエル等絶滅危惧種などの生態系調査を行っており、人間が自然にどう関わっていけるかをテーマに研究を続けています。



